

# Rio

豊田市矢作川研究所 月報

◆都心部の矢作川に「環境モデル都市」にふさわしい景観を ◆足助木こり塾の活動紹介 ◆第6回「矢作川森の健康診断」報告会のご案内



10  
2010  
No.146

豊田市矢作川研究所 〒471-0025 愛知県豊田市西町2-19 豊田市職員会館1F  
TEL 0565-34-6860 FAX 0565-34-6028 e-mail yahagi@yahagigawa.jp URL <http://yahagigawa.jp>

## 都心部の矢作川に「環境モデル都市」にふさわしい景観を

碓 伸夫

矢作川漁業協同組合の中に、矢作川の自然環境を改善し、釣り人や矢作川を愛する市民に、心地よい環境の中でアユ釣りや散歩などをして心を癒していただくという目的で「森林塾」という委員会があった。「森林塾」は平成17年11月から豊田市の中心部である豊田スタジアムに面した河畔林の整備をモデル地区として、地図の赤線で囲んだ第1次整備区間約600mを実施することにした。

現地は整備前の写真のように荒廃した竹林と蔦に覆われており、とても中へ入っていきける状態ではなかった。漁協豊田支部に応援をいただいて、足掛け3年をかけて河畔の竹林を1本1本手鋸で切っていった。手鋸で切った理由は、密集した竹林の中で日の光も当たらず、根は竹の根で締め付けられ死滅寸前の実生の木の芽を救うためである。このようにして救出した木の芽は、日の光が当たるようになると生き生

きとして、1年に1mほどの勢いで成長を続けている。今では森のように茂ってきて、間伐が必要なものになってきている。小鳥や昆虫達も戻ってきて自然の豊かさを取り戻しつつある。今年度からは、豊田スタジアム前の400mの区間を第2次整備区間として着手する予定である。



整備前の河畔林



矢作川漁協「森林塾」の第1次整備区間



竹林の伐採が進んで成長した木

このように河畔林の整備に目処がついてきたため、今まで、矢作川漁業協同組合の一部門であった「森林塾」を、今年4月5日にNPO法人「矢作川森林塾」として設立し、一般市民にも参加していただける市民活動の第一歩を踏み出した。市民の方々の積極的な参画を願っている。

整備に際して、色々な疑問が湧いてくる。その一つは、川原に生えている竹林の効用である。ある人は「川原の竹林は川原の土砂の流失防止に有効である」という。しかし、種々の文献では、竹の根は非常に浅く張っており、それに加えて、竹が密集してくると、竹の根が木の根を締め付け、木を死滅させる。その結果、砂の上に芝生を張ったようなものになり、砂の流出防止には役立たないとある。また、竹林は大水が出ると竹がしなって水の流れの抵抗にならず、川の水がスムーズに流れるようになるので増水時に有効であるという人がいる。いずれにしても、思いつきの発言が多いように思われるが、このような色々な疑問を理論的に確かめ、何が正しくて何が正しくないかをはっきりしたいと思っている。このような検討の場を大学等の研究機関と共同で持つことができればと願っている。

陸の整備が進んでくると川の環境が気になってくる。最近、「矢作川森林塾」の活動を川にまで広げ

ようという意見が出てきた。今一番の問題点は、川一面に茂っているオオカナダモである。この水草がアユ釣りの大きな弊害になると同時に、景観上問題になっている。矢作川森林塾ではこの水草の除去に挑戦することになり、「若い釣り師グループ」を活動の中心にして、NPO法人「矢作川森林塾」、矢作川漁協豊田支部、矢作川研究所、行政、学識経験者等がチームを組んで除去に当たることになった。活動はアユ釣りのシーズンが終わった10月後半ごろからを予定している。他のオオカナダモに困っている河川の見本になるような成果が出ることを祈っている。

最後に、現在活動している「矢作川森林塾」モデル地区のイメージについて述べる。このフィールドを3つのゾーンに分けたいと考えている。一つは、ゆっくりと自然を満喫しながら大きな木の下でベンチで休むことのできるゾーン。もう一つは、鳥や虫が憩えるような自然が豊かで、かつ、人が自然を感じながらゆっくりと散歩できる河畔のゾーン。さらには、川の中に外来種の水草や生物が大量発生せず、のんびりとアユ釣りができるゾーン。そして、これらのゾーンを組み合わせた環境モデル都市豊田市にふさわしい景観の実現である。

(はざま のぶお、NPO法人矢作川森林塾 塾長)

## 足助木こり塾の活動紹介

稲垣 久義

一般の多くの方にとって山も川も、空気や水と同様に「あって当たり前の」事柄で、特別なことは何も感じられないでしょう。これからお話する日本の森の問題は、日常生活の感覚や活動からは“かけ離れている”ことなので唐突かもしれませんが、暫し日常とは違った視点から生活を見るきっかけとしていただければ幸いです。

急激に変化する情報化社会や消費一本やりの生活と文化、成績優先・学歴優先社会だからこそ、教育問題も複雑化しているのかもしれませんが、何千年も続いている日本列島での営みの中で今ほど土と森から離れた生活をしていることはありません。生きることと生産活動は、森や自然の恵みを利用しながら、密接に結びついていました。その知恵と技は、戦乱の世であれ、太平な時代であれ、確実に受け継がれ歴史や文化が作られてきました。しかしその生活スタイルがこの数十年の間で一気に途切れようとして

います。

「便利な」消費一辺倒の生活に慣れている間に、漁業も農林業も切り捨て、気がついたら衣食住の何もかもを輸入に頼る生活になっている、同時に様々な技や知恵の伝承も途切れようとしています。

一方、輸入木材の安さから、地元にある森林に目がいかなくなり木材関連の職業は一気に衰退しており、山は見捨てられたかのように「放置山林」が広がっています。それだけならいいのですが、毎年のようにあちこちで起こる土砂崩れ山崩れのキッカケになっているのです。甚大な災害が起きてやっとヤマの存在に気づく有り様です。

正直なところ私自身こうしたことに気づくのは、塾が始まってからでした。

元信州大学林学科の島崎洋路教授が伊那市で開いておられる、森林ボランティアのメッカと言われるKOA森林塾で山づくりの基礎を学んだ者たちが、地

元愛知で活動場所を求めている時に旧足助町の篤林家（通称スーさん）と出会い、2001年12月、足助きこり塾が始まりました。スーさんは、単独で持ち山の木を伐り出し、その収益で生計を立てておられる方です。下草刈り、林道づくり、伐採、材の搬出、さらには適材適所の家づくりまで、みな独りでこなします。「百姓というのは百の知恵と技を持つ人のこと」と言われるとおり、一つの作業に様々な知恵と技が詰まっています。

塾生は、ちょっとチェーンソーが使えるようになった程度の初心者の集まりでしたが、スーさんの働きぶりに目を見張り、木を伐りヤマの手入れをすることの大切さを学び、色々な知恵と技を学び取るようになりました。塾設立から9年になりますが、この間、森林組合に就職した人が二人、森林ボランティアとしてとよた森林学校のアシスタントを務める人、矢作川水系森林ボランティア協議会（矢森協）の中核を支える人が出ています。

塾の活動で際立つのは、子どもたちの森林学習講座でしょうか。安城市のNPOの呼びかけで集まる子どもたちに、人工林の簡単な密度管理の方法と、実際に間伐するとどれだけ光がさすようになるかを体験してもらっています。ほぼ毎年夏秋2回、8年続いています。

森の手入れをして森が元気になり、仲間と共に汗を流した私達も元気になれる、そんなところが一番の魅力です。今年の12月で10周年、森で働くことの楽しさを一層多くの人に伝えていきたいと思っています。

（いなぎ ひさよし、足助きこり塾代表、  
矢作川水系森林ボランティア協議会副代表）



間伐を行う足助きこり塾のメンバー



子どもたちの森林学習講座

## ▶ 第6回「矢作川 森の健康診断」報告会のご案内 ～東海豪雨、あれから10年、矢作川の森を検証する～

豊田市中心部が水没の危機に見舞われた2000年9月の東海豪雨から10年、あれから矢作川の森が大きく動き出しました。森の健康診断が始まり、森づくり条例も制定されました。さて、矢作川の森は健康になったのでしょうか？ 矢作川森の健康診断6年間の結果をもとに、蔵治光一郎氏（東大愛知演習林長、矢作川森の研究者グループ共同代表）が自ら考案した「緑のダム実験」の紹介も交えて、東海豪雨や矢作川水源の森について報告します。

- ◆開催日時：2010年11月7日（日）  
13：00～17：00
- ◆場 所：JAあいち豊田本店ふれあいホール  
（豊田市西町4丁目5番地）
- ◆内 容：キーワードは「分かち合い・深め合い」です。緑のダム実験はもとより、もっと植生観察、土壌動物調査などのオプション調査結果もみんなで分かち合い、深め合います。参加各チームからの感想とともに、第6回と6年間の診断結果分析、オプション調査報告など、さまざまな企画を用意します。ぜひ参加してください。
- ◆主 催：矢作川森の健康診断実行委員会
- ◆参加費：無料（事前申込不要です）
- ◆問合せ先：090-4160-9065（矢森協）
- ※当日は、報告書（当日特別価格）のほか、各種記念品や書籍、物産も販売する予定です。
- ※駐車場に限りがあります。なるべく公共交通機関をご利用ください。



会場案内図



### お詫びと訂正

Rio2010.9 (No.145) の4ページ「速報！ 籠川の化石林？」の写真キャプションに間違いがありました。（豊田市四郷町）となっていました。正しくは、（豊田市上原町）です。ここにお詫びし、訂正いたします。

### 後記

今回は川辺や山間地と場所は違えど、自らの手で身近な林の整備を意欲的に行っている二つの市民団体の活動を取り上げました。川の水質悪化や山の荒廃に危機感を高め、自発的に環境保全に取り組んできた矢作川流域の人々の精神が脈々と受け継がれているのを感じ、かけがえのない地域の宝であるという思いを新たにしました。（洲）